



新潟県中越大震災の

今から学ぶ

—東日本大震災の遺すべきものは何か—

令和6年8月11日（日）

13:30～15:00

福島しあわせ運べるように合唱団は、東日本大震災の後新潟に来県し、新潟県立歴史博物館などでコンサートを開催してきました。それを受けて新潟県立歴史博物館友の会では、福島（二本松市内）にて復興支援展覧会を開催するなど、お互いに交流を重ねてきました。福島と新潟の交流はまだまだ続きます。

今年、新潟県中越大震災20周年にあたり、福島の子どもたちが山古志住民と対話し、そして「請戸小学校物語」を改めて公演します。

向かうべき道を探る子どもたちの言葉、そして歌に耳を傾けてみませんか？

会場 新潟県立歴史博物館 講堂

入場無料・150名（申込不要・先着順）

第1部〔対話〕 13:30～14:10

第2部〔公演〕 14:20～15:00

主催 子どもに音楽を贈る会 福島しあわせ運べるように合唱団

共催 新潟県立歴史博物館・新潟県立歴史博物館友の会

【写真】

（上）大きな手と小さな手 2024.4.30 撮影（福島県二本松市）

ひどく荒れた手、その人の人生が現れる手。私たちはこういった手に支えられて今を生きている。また今日も、新しい命がこの大きな手に支えられている。震災を知らない世代が増えている今、あの日の教訓は自分とは関係のない過去の話になりつつある。あの日守られていた私たちが、これからは守る側になるために、学び伝えていきたい。

（右）変わらない青空と桜 2023.04.16 撮影（福島県浪江町大堀地区）

「陶芸の杜おおぼり」に咲き誇る八重桜。震災から12年経過してようやく避難指示解除となったが、この桜はずっと変わらず咲き続け、大堀を見守っていた。変わってしまった人の営みと、変わらない春の訪れを伝えているようである。

